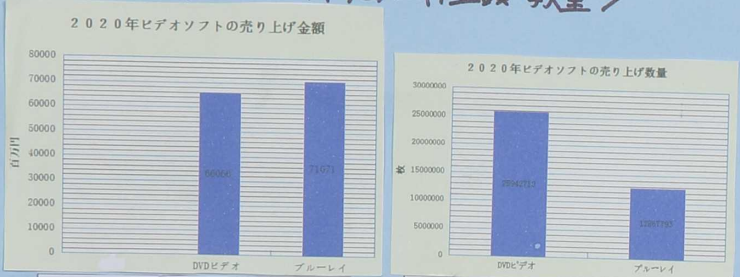


# 映画観賞は、レンタルで? それとも映画館で?

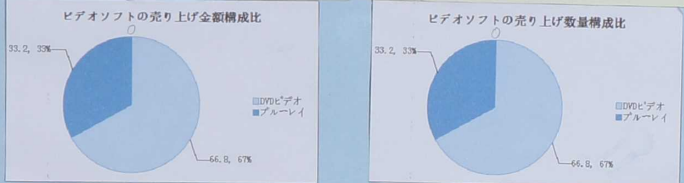
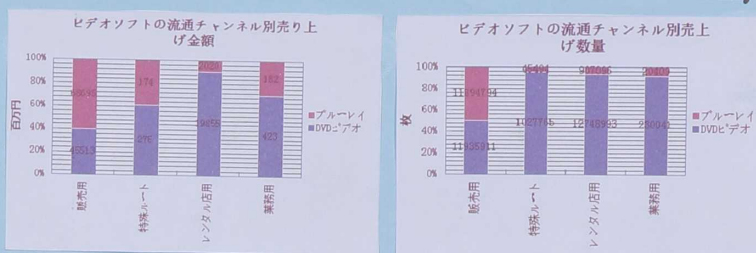
## <きっかけ>

僕の趣味は映画観賞で、よく映画館に行く。その時、感覚的に来場者数が年々増えてきているのではないかと考えた。なので、映画館の需要がどうなっているのかや、最近増えているレンタル店もどのような現状なのかを調べてみた。

## <2020年のビデオソフト売り上げ金額・数量>



## <ビデオソフトの流通チャンネル別売り上げ金額・数量>



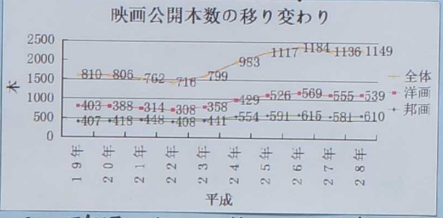
- ビデオソフトの売り上げ金額をみるとDVDビデオよりブルーレイの方が売れており、ブルーレイは全体の約70%を占めている。
- ビデオソフトの売り上げ数量をみると先程の逆で、ブルーレイよりDVDビデオの方が高くなっている(ブルーレイの方が高い?)

## <映画平均観覧料>



- 2007年~2011年頃と2014年~2016年頃までは右上がりになっている(映画館の需要が下がったのは?)

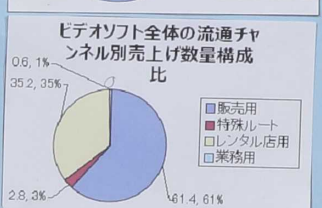
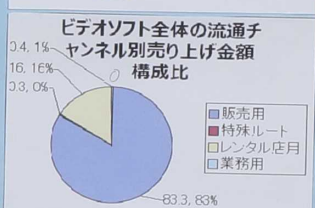
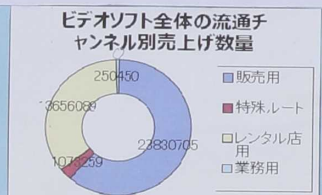
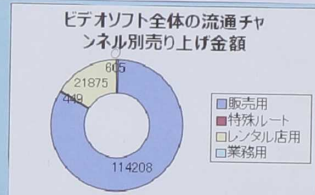
## <映画公開本数>



- 2007年頃は邦画と洋画の公開本数に差はなかったが、2008年頃からは邦画と洋画に差が開き、2016年頃には邦画より洋画が71本多い状態になっている。(近年は洋画が人気なのは?)

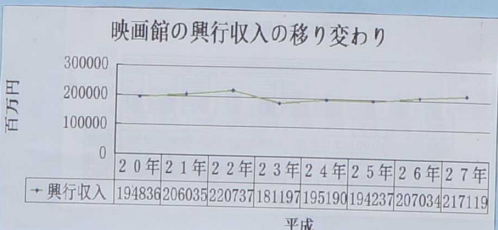


- 1年間映画の興行収入は、全体で117895百万円ほど大きく減少し、特に洋画が85579百万円も大幅に減少した。(コロナウィルスの影響が出たのではないかな?)



- ビデオソフト全体の流通チャンネル別売り上げ金額をみると、やはりレンタル店用が他の3つと比べてかなり多く、業務用の金額を上回っている。(レンタル店の需要が高まり、主流になっているのでは?)
- ビデオソフト全体の流通チャンネル別売り上げ数量をみると、レンタル店用に加え、業務用や特殊ルートの割合が高くなっている。また、売り上げ数量や構成比などをみると、両方のグラフとも販売用が半分以上の割合を占めている。

## <レンタル店と映画館の売り上げ金額>



- レンタル店の売り上げ金額の移り変わりをみると、安定しているところか、年々減少するような形になっている。また、レンタル店の中でもDVDビデオの方がブルーレイより収入が多くなっている。
- 映画館の興行収入の移り変わりをみると、2010年~2011年頃までは、減少傾向がみられたが2012年頃から反対に年々増加傾向にある。
- 2つのグラフを比べると映画館は売り上げが高上がっているが、レンタル店は売り上げが減少してきていることが分かる。(映画館の需要が高まってきているのではないかな?)

## <まとめ>

上記のような結果と表から、近年はレンタル店より映画館の方が収益が高くなってきており、レンタル店の普及から、また映画館の需要が少しずつ高まってきているのだと考えた。また、レンタル店の中でもブルーレイよりDVDビデオの売り上げ数量が多く、そのうちビデオソフトは販売用やレンタル店用に多く出回っていることが今回の調査で分かった。